

はじめに

グローバル女性リーダー育成研究機構長

副学長

猪崎 弥生

本報告書は、本学が創立 140 周年を迎えた 2015 年に改組されて新たなスタートを切りました、お茶の水女子大学ジェンダー研究所の、2015（平成 27）年度の事業成果をまとめたものです。

ジェンダー研究所は、本学 100 周年にあたる 1975 年に、文部省令による学内共同研究施設、女性文化資料館として創立されました。以降、女性文化研究センター、ジェンダー研究センターへの改組を重ねながら、日本ではまだ女性学（Women's Studies）という言葉すら知られていない時代から、社会の変化を先取りする勢いで、研究機関としての進化を続けてきました。また、その果たしてきた役割は、本学における女性学・ジェンダー分野の教育および研究を牽引するのみならず、国内においてはその先駆者として、海外に向けては日本を代表するジェンダー研究機関として、先進的かつ学際的な研究・教育プロジェクトを実施し、国際的な研究者ネットワークの構築に努めるというものでした。

このようなジェンダー研究所の実績が、本学の明治以来の女子高等教育の歴史の上に重ねられ、本学は、日本の中心的なジェンダー研究・教育拠点という認知を得ています。こうした認識に基づき、2015 年 4 月、ジェンダー研究所は、グローバルリーダーシップ研究所と共に、本学ミッションである「グローバル女性リーダーの育成」達成のために新設された戦略的研究組織、グローバル女性リーダー育成研究機構構成研究所に位置づけられました。

グローバル女性リーダー育成研究機構の事業には、グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点形成を目的とする国立大学機能強化経費が投じられています。拠点形成という組織整備と合わせて、時代に即した女性リーダー教育と、新たな女性リーダーシップ論の構築という研究成果発信も目標としており、その中でジェンダー研究所が特に担う事業は、学際的かつ国際的なジェンダー研究のさらなる推進と、日本およびアジアを中心とした研究ネットワークの拡大強化です。さらに、これまでそして今後の研究成果および研究者ネットワークの活用による、機構におけるリーダーシップ研究への貢献も期待されています。

2015 年度はそのような取組の初年度であり、ジェンダー研究所は、リーダーシップ研究所と共に、新組織の基盤づくりに努める傍ら、研究プロジェクトの推進および、国内外から数多くの研究者を招聘しての国際シンポジウムやセミナーの開催等に取り組み、かつ、本学 140 周年記念事業の一翼を担うなど、新組織のキックオフとして十二分な事業活動を展開できたと思っております。

今後も、同様の取組を通して、国際的な視野に立つグローバル女性リーダーの育成と、日本の男女共同参画社会実現に向けての歩みを、一層推し進めていく所存です。ご支援、ご協力くださいました皆様に、心から御礼申し上げますと合わせて、引き続き、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。